

多様な労働力支援により農業者の規模拡大と所得増を実現

越智今治農協(愛媛県)

取組の概要

- 果樹や野菜などの作物や作業別に、農業者のニーズに合った労働力支援を実施。
- 取組により、農業現場での人手不足の解消や担い手の規模拡大による所得増に貢献。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 全般的な農作業支援を行う農協出資法人「ファーム咲創(さくぞう)」

管内の農業者の高齢化が進む中、平成23(2011)年に、農業者の現状を調査するため、農業者と膝をつき合わせた座談会を管内62か所を実施。調査により、「10年以内に農家戸数が半減する」結果となり、耕作放棄地対策や担い手の育成のため、農作業受託、農業経営、新規就農者の育成を総合的に行う「株式会社ファーム咲創」を平成24(2012)年に設立。

同社は、米・麦・里芋の植え付けや収穫、除草など多様な農作業を受託して実施。
(作業受託件数:平成25(2013)年度44件→平成30(2018)年度83件)

2 技術が必要な果樹園地の労働力支援を行う農作業支援グループ「心耕隊」

水稻・野菜作を中心としたファーム咲創の取組に対し、果樹についての営農支援が組合員から強く求められ、平成25(2013)年、農協職員をメンバーとした営農支援グループ「心耕隊」を組織。

周年で剪定、摘果、マルチ張り、収穫などの作業を実施。農業者からの依頼を待つだけでなく、人手が足りない農業者に営農指導員が心耕隊の利用を提案することで作業受託を拡大。

(作業受託件数・金額:平成25(2013)年度387件1,272万円→平成30(2018)年度574件2,067万円)

3 人材派遣会社と連携して野菜栽培向けに働き手を確保する「農業応援隊」

営農指導員が面積拡大を農業者に提案したところ、「栽培管理や防除はなんとかできるが、朝晩2回の収穫だけは人手が足りない」といった声があったことをきっかけに、県内の人材派遣会社と連携した「農業応援隊」の取組を平成27(2015)年にスタート。広告による人材募集など派遣会社のノウハウを活用して作業員を募集し、集まった収穫作業員を農業者に紹介。

また、繁忙期の異なるファーム咲創・心耕隊の収穫作業等にも人材派遣会社からの派遣人材を受け入れることにより、単なる労働力の確保だけでなく、同一人材の通年での派遣受け入れによる人材育成にもつながっている。

取組の実績

<農業応援隊を活用した事例>

- キュウリ農家Aさんは、農業応援隊を活用し、規模拡大・収益増を実現。

H26	
販売金額	225万円
経営規模合計	19a 1,480本
半促成(ハウス)	7a 540本
露地(7月定植)	5a 400本
抑制(ハウス)	7a 540本
作業員	本人、妻



H27	
販売金額	345万円
経営規模合計	24a 1,880本
半促成(ハウス)	7a 540本
露地(5月定植)	5a 400本
露地(7月定植)	5a 400本
抑制(ハウス)	7a 540本
作業員	本人、妻、 農業応援隊 (収穫作業のみ)

増加した販売金額
120万円の概算収支

収入 120万円

ー 支出 84.1万円

利益 35.9万円

※支出のうち人件費は
22.2万円